

# 工学部だより

2014.3

No.19

「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」  
開所記念式典及び内覧会 開催！



展示コーナー



テープカット

平成25年4月、米沢市アルカディアに有機エレクトロニクス分野における  
先端技術の実証研究拠点として開所(P 6に関連記事掲載)

## 目次

|                                                  |   |
|--------------------------------------------------|---|
| やる気のスイッチ 飯塚工学部長 .....                            | 2 |
| ごあいさつ 上村後援会会長 .....                              | 3 |
| 学務委員会だより .....                                   | 4 |
| 工学部学生相談室より .....                                 | 4 |
| 特集 学生による就職活動体験談<br>就職活動と米沢での生活 .....             | 5 |
| 一山形から世界へー 有機エレクトロニクス<br>イノベーションセンター設立の意義について ... | 6 |
| 「保護者懇談会」を広く有意義に！ .....                           | 6 |
| 学科(専攻)だより .....                                  | 7 |

|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| 平成24年度一般会計収支決算書及び<br>平成25年度一般会計収支予算書 ..... | 12 |
| 平成25年度工学部後援会役員名簿 .....                     | 13 |
| お知らせ .....                                 | 13 |
| 工学部の26年度年間予定表 .....                        | 13 |
| 平成25年度卒業・修了予定者の就職内定・<br>進学予定先一覧 .....      | 14 |
| 平成24年度卒業・修了者の就職状況 .....                    | 15 |
| 留学生の山形県内企業訪問の紹介 .....                      | 16 |
| サークル紹介 .....                               | 16 |



# やる気のスイッチ

山形大学工学部長 飯塚 博

先日、文部科学省審議官のご講演を伺う機会がありました。グローバル化をめぐる社会状況や学生の修学に関する現状のお話がありましたので、その内容の紹介と筆者が感じたことを以下に述べます。

## ○グローバル化

ご講演によると、日本の製造業が海外進出して現地で生産活動を行っている企業数割合は平成24年で約68%、平成29年には70%を超えると推測されています。卒業生が入社後に海外勤務をしたり、海外企業と交渉をしたりする機会は益々増え、社会から求められる能力としてグローバル力が益々重要視されていくと思われます。それに対する最近の若者の意識ですが、「海外では働きたくない」という新入社員割合は2001年で約29%、2013年には約58%まで増加しました。一方で、「どんな国でも働きたい」という積極的な新入社員も、2001年の約17%から2013年には約30%に増加しています。すなわち、積極派と消極派が大きく分かれ、二極化が進んでいることになります。

積極派が30%もいることは頼もしいことです。更に多くの若者に「やる気のスイッチ」を入れるにはどうしたらよいのでしょうか。ハックスリーは小説の中で「進歩は必ず代償を伴う」という言葉を述べています。満たされた社会の中で育つと忘れてしまうものの、それが代償です。私たちは色々なものを代償として払っていきそうです。「情熱」、「やる気」、「生きる力」、……。これらの力の大切さを学生にどこまで気付かせてあげられるかが重要です。

## ○修学時間

ご講演の中で、学生の修学時間に関する日米比較が示されました。予習・復習・課題対応等の修学時間が一週間当たり11時間以上の学生割合は、日本で約15%、米国で約58%もありました。調査方法にやや不正確性を含みますが、傾向は概ね実情を反映していると思います。先日、山形大学で行われた認証評価に係る訪問調査の際にもこのことが話題になりました。学生の自主的な勉学時間が日本で増えないのは何故なのでしょう。

今、4年間で卒業できない学生数が増えると、大学としての外部評価が下がります。十分に学生を教育していないと受け取られるのです。そこで、手厚く指導する方向に進んでいくのですが、一方では、それに伴って学生には生き抜く力が低下していきます。昨年の工学部運営諮問会議で、ある諮問委員から「学生の面倒を見すぎていないか」という意見がありました。バランスを保ちながら突き放す教育をすることが課題です。

## ○時代の転換点

私たちは今、時代の転換点にいます。ご講演の中でも、文科省の第2期教育振興基本計画に触れられ、これからの社会の方向性として「多様で変化の激しい社会の中で、個人の自立と協働のための主体的・能動的な力」が求められていました。そして、その力は例えば、答えのない問題に最善解を導くことができるような力、と説明されていました。

答えのない問題を解く、とはどういうことでしょうか。これまでのものづくりは、モノが不足していた社会に安いモノを大量に供給して私達の生活を豊かにすることを目指してきました。そして今、私達は、そのモノの物質的な機能よりもそれに付随しているブランド力や付加価値を求めて商品を購入するようになりました。そのような付加価値の寿命は、物質的機能の寿命に比較してかなり短いものです。すなわち、次々とアイデアを出して、購買意欲の湧く価値を付加することが求められます。そのため、原理原則に従って課題を正しく解く力よりも、相手の要求を読み取ってそれに応えていく柔軟な発想力が求められているのです。

人は動物とは違います。目の前にニンジンをおぼら下げられても走り出しません。私達の「やる気のスイッチ」は給与・モノ・出世のような目に見える世界にもありますし、高い志や使命感のように目に見えない世界にもあります。どのスイッチでもよいので、入れることができれば主体的・能動的な力になります。是非、協力して、若者にやる気のスイッチを押させましょう。



# ごあいさつ

山形大学工学部後援会会長 上村 勲 二

工学部後援会会員の皆様には日頃から会の活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

保護者懇談会、就職活動と学校評価を報告します。

保護者懇談会は、今年度も全国3ブロックに分けてから3回目となり、下表のように実施しました。

| 地 域      | 開催日      | 開催地  | 参加者数  |
|----------|----------|------|-------|
| 関東・甲信越地区 | 9/6(金)   | 東京都  | 24名   |
| 北海道・東北地区 | 10/12(土) | 米沢市  | 約200名 |
| 中部・西部地区  | 11/10(日) | 名古屋市 | 23名   |

参加された方からは「担任の先生から子供の生活の様子を丁寧に説明頂き安心しました。学生一人ひとりを大事にして下さるので感謝の気持ちで一杯です」など有難い感想を頂きました。懇談会で頂きました御質問や御要望の回答と対応策は山形大学工学部ホームページに掲載しております。御確認頂き今後とも御協力をお願い致します。参加者が昨年度よりも減りました。参加し易いように日時を設定致しますと共に、PR不足と考え本紙6頁に長谷部副会長が保護者懇談会について詳しく説明しています。

来年度も次の予定で計画しています。開催前に御案内申し上げますが、他会場の出席も結構ですので、御参加をお待ちしています。

| 地 域      | 開催予定日     | 開催予定地 |
|----------|-----------|-------|
| 関東・甲信越地区 | 9月6日(土)   | 東京都   |
| 北海道・東北地区 | 10月11日(土) | 米沢市   |
| 中部・西部地区  | 11月9日(日)  | 名古屋市  |

今年度も就職活動は12月から始まりました。好景気を反映して内定率は93.7%(1月末現在)と昨年度よりも約1%上昇しており、ひと安心しております。今後も連携を密にして全員内定を目指します。御協力をお願い致します。

今年度の合同企業説明会を12月7日・8日に米沢市営体育館で実施しました。317社の企業に約700名(述べ1319名)の学生が会社説明を受けました。

現2年生は、今年度より3カ月遅れて3学年3月からの就職活動となります。対応策は現在大学で検討しているところです。

山形大学の学校評価は2014版大学ランキング(朝日新聞出版)で全国756大学中、大学長による評価(教

育と研究の2分野)では17位、高校からの評価(勤める、伸び代、熱意の3項目)では15位でした。先生方の御指導に感謝申し上げます。また学生諸君は自信を持って勉強に研究に邁進して欲しいものです。

この度、大学から後援会に支援要請があり、会長副会長会で検討しお引き受けしました3事業を説明致します。御理解頂きますようお願い申し上げます。

一つは、機械システム工学科の走査型電子顕微鏡(SEM)更新購入助成です。現SEMは購入して17年経過し故障が続き学生実験・卒業研究や修士論文作成に支障を来しています。購入は国費ですが更新費用は大学負担であり、要望を提出していますが更新されないとの事。購入金額の半額の1千万円を施設協力金(積立金)から助成しました。今後も他学科からの要望に対しても検討し助成したいと考えています。

二つは、TOEIC-IPテスト受験料の一部助成です。工学部では学生の英語力向上を図るため、専門科目「英語A」の受講者にTOEIC-IPテストを実施しています。昨年度まで運営費から受験料一部補助を行っていましたが、今年度は後援会に支出要請がありました。受験料3,600円の内1,600円を補助、624人分、一般会計から約80万円を助成しました。

三つは、工学部教育環境整備事業として各棟空調設備(GHP方式)の点検と更新費用助成です。GHP方式空調設備は平成11年度から国費による設置を開始し、点検更新は大学経費で行います。設備の維持管理は適時的確に行わないと破損故障の原因となり、規定使用時間毎の点検更新は不可欠です。点検更新は今後も継続して発生します。今年度の点検更新費用約825万円を施設協力金(積立金)から助成します。

なお、施設協力金は法人化以降の運営費交付金減少の不足分を助成する目的で積み立てています。

工学部は、教育・研究・社会連携・地域貢献等の事業を活発に展開しています。教育研究の財政基盤である国からの運営費交付金は法人化以降毎年1%削減が続き、加えて電気料や諸物価の値上げが重なり、工学部の財政状況は厳しくなっています。工学部では学生及び教員の教育と研究を推進するのが厳しい状況にあり、後援会への支援要請となりました。

## 学務委員会だより

学務委員会委員長 妻木 勇一  
(大学院理工学研究科機械システム工学専攻教授)



学務委員会では、学業に関わることはもちろん、課外活動、奨学金から健康管理や身分に関することまで学生生活に関わる様々なことに関わっています。

さて、保護者の皆様が気に掛けられていることは修学状況と就職のことだと思います。企業が学生に求めている素養として、コミュニケーション力、主体性、チャレンジ精神などが上位に挙げられています。一方、工学部では、技術者・研究者として活躍する人材が求められますので、基礎学力も重視されることは言うまでもありません。実力をつけるには高いモチベーションを持って勉学や研究に取り組むことが大切です。将来自分はエンジニアとして社会に、そして世界に貢献するのだという意識を持つと共に、工学部では、それぞれの専門分野のエンジニアになるための知識や方法を修得するためのカリキュラムを組んでいるということを理解してもらうこ

とが重要です。もちろん、修得した知識や経験は、その専門に縛るものではなく、異なる分野に挑戦する時には、その礎になるはずです。当たり前のことですが、大学での勉強は「させられる」ものではなく「自らが進んで」行うものです。これを理解すれば、おのずと先に書いた企業が学生に求めている素養にも繋がっていくものと思います。時には、このような観点からお子様の勉強を励まして頂ければと思います。将来の自分のために今何が必要なのかをしっかりと考え、それを実践できる学生の育成に我々も努めてまいります。

成績表は、従来通り年2回(9月と3月)送付予定です。不明な点がございましたら、工学部教育支援担当までお問い合わせください。

引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 工学部学生相談室より

臨床心理士・准教授 高橋 国法

はじめに工学部後援会並びに保護者の皆さまには学生相談室へのご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

米沢キャンパスでは教員を構成員とした学生相談室が平成12年に設置されました。今日では大学に学生相談室はあって当たり前の時代になりましたが、当時は(実は現在もですが)学部独自で(実質的には大学院も含まれていますが)学生相談室を設置するのは全国的に非常に珍しいことで、日本の大学では先駆的な取り組みでした。平成21年度には米沢キャンパス専属の専任カウンセラーが配置され、現在では非常勤カウンセラーと共に、毎日二人体制で相談にあたっています。また平成25年度からは学生相談室の機動性を高めるため、副学部長が相談室長を兼任しています。

学生相談の状況ですが平成24年度の総関与数は前年度比で200件ほど増加し2,549件でした。これは個別カウンセリングや電話・メールでの対応、教職員、ご家族等とのコンサルテーション等がすべて含まれています。学生だけを見ますと米沢キャンパスにいる学生の約5%に相当する150名が利用しました。

人と言うのは興味深い生き物で言語によって物事を考えます。自分の頭の中にあることなのにイメージはイメージのままとどまり続けそれが何なのか謎のままです。しかし言葉にすることで徐々にその姿が明らかになっ



たり、新しいものが創造されていきます。カウンセラーの役割の一つは、心の中で未だ形成されない何かを言葉にするお手伝いでもあります。

カウンセラーの立場から学生の皆さまには自分と語らう時間を持ってもらいたいと考えます。自分を見つめる、心の中を聞く時間と表現しても良いかもしれません。心にあるものを言葉にしながら、と言ってもこれは簡単なことではありませんが、将来の礎を築いてもらいたいと願います。また保護者の皆さまには、そんな時間が必要なのかかもしれないという思いで御子息御息女への更なる叱咤激励、見守りをお願いしたいと存じます。

## 就職活動と米沢での生活

「雪ばかり多いくせに女の子少ねぇよ米沢」・・・なんて嘆いてばかりいませんか？在学生の皆さん。(女子在学生は全員かわいいです)さて、何が言いたいかというと、学生生活は充実していますか？ということです。かけがえのない大学生活を、米沢という地で“どのように”楽しめるでしょうか？テーマは就職活動(就活)ということですが、「履歴書はこう書いたよ!!」なんて小手先テクニックをここに書く気はありません。憧れの企業に必要とされるためには「学生生活が充実していたか」のほうが100倍大切だと思うからです。あと少しで皆さんは、知らないおじさん(面接官)達に取り囲まれこう聞かれるわけです。「学生時代なにをしてきましたか？」と。さて、皆さんはどう答えるでしょうか。

「就職活動の成功」と「学生生活の充実」のカギはどちらも『活動性』だと私は思います。とにかくあらゆる場所や機会に積極的に飛び出し、様々な経験すること。その中で「自分とはどんな人間なのか」を見つめ、「問題にどう立ち向かうのか」が自然に確立します。実はこれって、就活の王道作業『自己分析』と、面接の王道クエスチョン『今までに辛かったこととそれをどう乗り越えたか』を自然にやってるんですよね。だから日頃から積極的に活動をしていれば、就活が始まってから薄っぺらな美辞麗句を並べる必要はないのです。

では取り組む活動としてなにがよいのか。それについては、研究だろうが、サークル活動だろうが、アルバイトだろうが、合コンだろうが、なんだっていいと思います。要は「なにをしたか」ではなく「どう取り組んだか」。例えば研究や専門分野について面接で話すとします。相手は企業で何十年も研究してきたプロですよ？たかだか学生のペーペーがわかったように話したところで通用しないでしょう。これが工学部、とくに大学院生以上が陥りやすい視野の狭さだそうです(よく聞かされました)。一方私のアルバイトを例に書けば、競馬場・学童保育・コロッケ売り・スナックのボーイ・雪下ろし・・・本当にいろいろやりました。振り返ってみれば、学童保育で小学生に本気で説教をしたり、スナックで年配のお客様に昭和歌謡を歌ってくれと注文されたり(ちなみに私は平成生まれです)と、そこには大小様々な『挑戦』があったのだと思

います。就職活動に舞台が移ったとき、その経験がすべて武器になりました。どうですか？家にこもってネットサーフィンばかりしてる場合じゃないでしょう。変なサイトの閲覧履歴ばかり残さないで。

ここまで読んで頂くと、いわゆる就活のイメージである「企業情報を覚える」「面接練習をする」なんてたいして意味がないのでは？と思われるかもしれませんが。実は私も就活開始当初、「そんなテンプレートの準備や練習なんて必要ない」「人間性をみてもらえればいい」と斜に構えていました。それによる失敗談もあります。某東証一部上場商社の3次試験でのことです。前述のとおり斜に構えていた私は、同社に関する十分な情報収集をせずに面接に臨みました。それでも順調に進み感触も悪くない。最後に面接官から「逆に私たちに聞きたい事はありますか？」とのこと。積極性をアピールするという狙いから(完全に打算)、「もし次の最終面接に進んだ場合、社長に会わせていただけますか？」と聞いたところ、面接官が一言。「君が会いたいという社長だけど、実は2週間前に辞任して今は別の人なんだよね。」と。・・・ここ、落ちました。やはり最低限の勉強は大切(笑)。礼儀です。

あと面接練習も大切。ウソの人間を演じようとするのではなく、「自分の意見を的確に伝えるにはどうしたらよいか」という観点で取り組んでください。他者にしっかりと意志が伝わらないと話になりませんから。そこについても私は、学生生活で出会えた、たくさんの方々との対話の中で経験できたからこそ自信が持てました。本当に感謝です。

まとめです。学生生活ではとにかく行動！米沢を“どのように”楽しめたかが問われる『活動性』です。「米沢だからこそ」「あなただからこそ」の豊かな経験を積み上げたその先に、憧れの企業への内定と、たくさんの友達・思い出が残るはずですよ。いやー米沢楽しかった。雪多いけど。



卒業式(学部時代)



地域の方々との交流

## ー 山形から世界へ ー

# 有機エレクトロニクスイノベーションセンター 設立の意義について

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター長 大場 好 弘



このセンターは、1)印刷で製造する薄型テレビ及び省エネの革新的技術である有機EL照明、2)ヘルスケアセンシング、有機ELテレビの表示制御技術である有機トランジスタ、3)薄く軽く衝撃に強い有機太陽電池、4)最新の有機材料技術をいかした有機蓄電デバイスの4部門における開発研究を行う世界的な拠点です。「夢からビジネスへ」を合言葉に、世界一の有機エレクトロニクス研究所の研究成果をベースとして、継続的にビジネスを生み出すための開発技術を企業の皆様と共に確立し、革新的技術をベースとした新たな産業創出と企業集積化を押し進める事がこのセンターの役割です。高性能、高機能を追求するプロダクトイノベーションだけでは世界市場では勝てません。プロセスイノベーション(製造革新技術)による価格競争力、マーケットイノベーションによる総合的市場戦略を加え、継続的にマーケットで利益を生み出す仕組みの確立と継続的な企業支援が本センターの役割です。技術の高度化複雑化およ

び国際ビジネスの迅速化に対応するためには企業連合だけでは勝てません。国、大学、企業、自治体が強力に連携した勝ち組の活動を継続的に推進する仕組みが必要なのです。更に、参画した企業群に革新技術に精通した中核人材を安定的に供給する事も本センターの役割です。REMT(R:先端研究者、E:国際エンジニア、M:経営者、T:先端技能者)人材の戦略的供給により、企業の継続的生産活動を担保出来ます。5年10年先の最先端コア技術を創出する有機エレクトロニクス研究センターの成果をシームレスに実証化する事で継続的にプロダクトイノベーションを続ける事が出来、企業、大学、国、地方自治体が一体となった支援体制が事業化までの時間を短縮し、市場競争力を担保出来るのです。また、このような活動が新たな学問のシーズを創出する事が出来るので「新たな学問の創出の場」としても重要な役割を果たします。これこそがイノベーションセンターを大学が主体的に運営する理由でもあります。本センターの趣旨をご理解いただき、ご支援のほど宜しくお願い致します。

.....

## 「保護者懇談会」を広く有意義に！

山形大学工学部後援会副会長 長谷部 利 信

保護者懇談会は今年度も3地区で行われ、関東・甲信越地区は東京都内、北海道・東北地区は地元の米沢市、中部・西部地区は名古屋市に於いて開催しました。参加された方はほぼ例年通りの250名です。工学部の在学生は約2500人(院生除く)ですから一割の保護者が参加し、九割の保護者の方が折角の機会を逃したと言えます。学生自身が大学生活をどう過ごしているか気になるところではありますが保護者懇談会を通じて工学部全体の活動概況を知り、本人の成績、進路・就職等について個別相談に乗っていただく事はたいへん役立つと思います。懇談会のアンケートを集計しましたが、好評との御意見が沢山あ

りました。有難いことです。この結果を参加できなかった保護者の方にも見ていただけるようホームページに掲載するよう画策中です。学部長・事務局に依頼し広報部に働きかけます。地理的にまた日程上残念ながら参加できない方もいらっしゃると思います。保護者の御意見・御要望にお応えし、実のある学生生活を送ってもらうため、「工学部だより」だけでなくホームページでも知ってもらえるようフォローして参ります。



# 学科(専攻)だより

## 機能高分子工学科

機能高分子工学科では、3年後期から、専門性の高い実習や最先端の実験等を、配属された研究室で実践的に行っています。2012年度からは、機能高分子工学分野選択のシステム創成工学科の学生も研究室配属されるようになりました。大学での学習において、将来の進路を見据えつつ自らの専門性を磨きあげて行くことは重要ですが、その鍛錬の場である研究室に学生が接する機会は、従来は3年前期までほぼ皆無でした。そこで、研究室での教育・研究活動を周知するために最近行っております取り組みをご紹介します。

小白川キャンパスで過ごす1年次ですが、基盤教育の導入科目として設定されている「スタートアップセミナー」の一環として、入学直後に米沢キャンパスへのバスツアーがあり、これが研究室訪問の最初の機会となります。米沢に移動後の2年前期には、基盤教育の必修科目である「スキルアップセミナー」

教育プログラム長 教授 岡田修司

を履修します。各研究室の見学を通して機能高分子工学科でどのようなことが学べるかをより詳細に理解することを目的としています。これらの基盤教育科目では、情報収集、レポート作成、プレゼンテーションといった、大学で学ぶための基礎的な技能を習得することも同時に目指しています。さらに、2年生の希望者を対象に、前期の後半から夏季休暇にかけての期間で、「研究室配属体験トライアル」を実施しています。2012年度は11名、2013年度は18名がこのトライアルに参加し、興味のある研究室で、ゼミへの参加や実験の見学・体験などを実体験しました。学生の皆さんには、このような機会を積極的に利用して、自身の進路を決めるための一助としていただきたいと思います。



## 物質化学工学科

物質化学工学科では総勢21名の教員で1学年約80名の学生の教育に当たっております。教員の専門分野は無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、電気化学といったピーカーやフラスコを用いて実験を行う応用化学分野から化学装置の設計やシミュレーション等を行う化学工学分野まで多岐にわたっています。これらの専門教育を受けた本学科学生は企業の研究・開発部門から製造部門まで、技術系のどの部門においても活躍することができます。

本学科の学部生、大学院生の殆どは化学系企業を中心とした製造業に就職しています。意外に思われる方もおられると思いますが、これらモノづくりの企業が学生の採用に際して特に重要視しているのがコミュニケーション能力です。4年次には卒業研究の中間発表会と卒業研究発表会が行われますが、どの学生も原稿を持たず自分の言葉で発表しており、大勢の人の前で発表するプレゼンテーション能力は高くなっているように思われます。一方で、対人関係については苦手とする学生もあり、また精神的に弱い学生もわずかながら増加傾向にあります。本学科では数年前から3年次後期の学生を研究室に仮配

教育プログラム長 教授 會田忠弘

属しております。早いうちから教員や先輩学生と密に接触させることによりコミュニケーション能力が養われるものと考えております。

就職については、学部、大学院とも医薬等も含む化学系企業が中心ですが、電気や機械系の企業あるいは空調等の設備系の企業も化学の知識を持った学生を一定数必要とし、これらの企業に就職する学生もおります。また、学部学生の場合には少数ながら市職員や県職員といった公務員を目指す学生もいます。

本学科学生の活躍については、毎年各種学会でのポスター賞の受賞等がありますが、今年度マスコミに取り上げられたものとしては産学連携プログラム第1回スマートフォンアプリ開発全国学生コンテストでの特別賞の受賞があります。7名の学生で電池の劣化を予測するプログラムを開発したもので県内の新聞社、テレビ局からの取材を受けております。

本学科教職員は社会で活躍できる人材の育成を目指し努力しております。保護者及び後援会の皆様におかれましては今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## バイオ化学工学科

### バイオ化学工学科&専攻の近況

山形大学工学部では、少子・高齢化社会のニーズに応える人材育成を目的に、平成22年4月にバイオ化学工学科が新設されました。医療や環境など社会的ニーズの高い分野への先端工学技術の導入が加速する中で、本学科が目指す人材の育成には、これまでの化学系学科ではカバーできない部分を補う新しい教育カリキュラムが必要です。そこで本学科では、1年次から化学と生物学を総合的に学び、2年次からは専門教育として化学工学、無機・有機化学、生物科学の幅広い分野の講義と実習を行い、化学と生命科学に関する高度な専門知識を学びます。3年次の後期（6学期）には各研究室へ仮配属されます。これは、先端研究を通して実践的な研究手法を学ぶことで科学技術が社会に及ぼす影響について論理的に



教員・学生交流



合同企業説明会

教育プログラム長 教授 阿部 宏之

洞察し、みずから適切に判断できる能力を備えた専門技術者・研究者の養成を目的とする教育プログラムの一環です。

本学科の第一期生は工学部の長い歴史の中で初めて女子が半数以上を占める学科となりました。また、入学前は農学部や薬学部など工学部以外への進学を考えていた学生の入学が多いことも本学科の特徴です。そのため、本学科の教職員は、第一期生のための新しい就職先の開拓や進学に向けて万全の体制づくりを行ってきました。その成果もあって、第一期生のほとんどは早い段階で進路を決めることができました。

本学科は、医療、環境、分析化学、エネルギー分野の先端研究を行っている教員が多数そろっており、研究のレベル及び設備の面で東日本における有力な工学部バイオ系学科であると自負しております。第一期生は順調なスタートを切ることができましたが、本学科はこれから独自の歴史を築いていかなければなりません。保護者及び後援会の皆様方の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



## 応用生命システム工学科

応用生命システム工学科の教育目標は、「一つの学問を学ぶのではなく、様々な学問から生命システムを制御、計測、模倣、そして修復するための教育・研究を行い、学生が実社会で必要な電気・機械・生命・材料などの知識を得て、様々な局面での問題が解決できる”総合エンジニア”を育てること。」です。そのため、学生は5系統の専門教育科目（生命系、システム系、エレクトロニクス系、情報コンピュータ系、創発系）を学びます。大学院進学が6割、学部卒での就職が4割と、進学志向の学生が多く、より専門性の高い知識を得たいと考える学生が増えています。

昨年度と比較して、就職状況は上場企業と公務員への就職の伸びが顕著となっています。この傾向は経済状況の好転に因るものと考えていますが、特に、人と器機の橋渡しに関連する企業の採用や推薦依頼が増えてきており、当学科の特色が企

教育プログラム長 教授 山本 修

業で認知されてきていると考えています。ただし、学生自身のコミュニケーションやコミュニティーの構築能力の低下が見られるため、面接で失敗するケースが増えつつあります。現在、教職員一丸となって、コミュニケーション能力の改善などを行うバックアップ体制を作っています。

学生諸君が大人として自立し、旺盛な好奇心と確固たる規範意識を持ち、かつ実社会で順調に育つための手助けをして参りますので、保護者の皆様のご協力とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。また、学科の最新情報はURL（<http://www.eie.yz.yamagata-u.ac.jp/s/>）にアップしますので、ご覧ください。



## 情報科学科

情報科学科では、情報化社会の中心を担う技術者育成を目的に教育を行っています。情報の表現法や処理法などを基本技術として、画像・音声・通信などの基幹分野から、最近話題のビッグデータ、M2M、ARまで、応用分野も拡大中です。今年度、感性画像処理の永井岳大准教授と確率情報処理の安田宗樹准教授の2名が教員として加わり、研究分野も広がってきています。



平成25年度工学部長杯野球大会で情報科学科のチームが優勝

教育プログラム長 教授 平 中 幸 雄

ただし、今や、コンピュータやネットワークは当たり前の道具、また、論理思考さえできれば文系の卒業生でも採用するという情報系企業もあります。情報の卒業生が、学習成果を発揮するにはどうしたらよいのでしょうか。



野村元楽天監督は「基本ができていないのに応用ばかりしようとするプロ野球選手が多い」と苦言を呈していました。情報技術者に置き換えると、情報処理の本質的理解や能力が不十分なまま、ソフトやシステムを作り上げようとするに相当しそうです。分かっている企業は、ちゃんとした情報の素養を持つ卒業生を求めています。その期待に応え、どのような課題にも最善を実現できる人材を育てるべく、教育内容・方法の改善に努力していきたいと思っています。

## 電気電子工学科

当学科では在学中に4つの学習教育目標「基礎学力」、「専門知識と応用力」、「コミュニケーション力」、および「技術者倫理と複眼的思考力」を獲得できるように取り組んでいます。特に、コミュニケーション能力を高めるために、チームで仕事を進める課題解決型プロジェクトの科目を多く設定しています。4名一班で仲間と議論し、アイデアを出し合いながら、班独自のものを作り上げて性能を競うものです。1年生では3週間でボール飛ばし装置、2年生のグループプロジェクトⅠでは15週間で発電機、3年生のグループプロジェクトⅡでは15週間でロボットづくりを体験します。

本年度は、2年生の特にもものづくりに興味を持つ学生さんと、工学部学科横断型ものづくりコンテストに参加し、有機EL照明を使った多機能ミラーで、みごと優勝いたしました。さらに、熊本大学主催の全国から参加を募った「もの・クリ



熊本大学で開かれたものづくりコンテストの様子

教育プログラム長 教授 廣 瀬 文 彦

CHALLENGE2013」に参加し、入賞を果たしました。ものづくりの楽しさを知ると共に広く一般に伝えることの大切さを学ぶよい機会となりました。ものづくり活動をもっと知ってもらうために、優勝作品を学内に展示して、どなたにでもご覧いただけるよう準備を進めています。



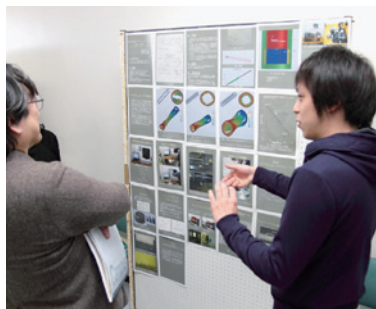
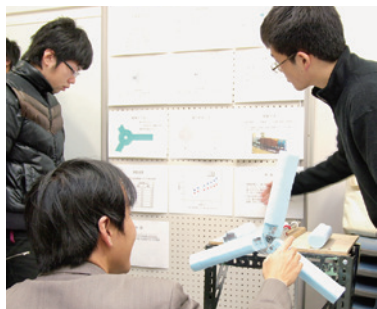
これからも学生さんが自ら積極的に学び、自立した技術者として育つための手助けをしていきますので、保護者の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。



## 機械システム工学科

機械システム工学科では、「21世紀を担う優れた人材の育成」を目標としています。資源の乏しいわが国の発展のためには、新しい価値の創造や新分野の産業を開拓できる優秀な人材の育成が生命線といわれています。特に日本の産業界が新たな成長を遂げるために、専門知識・スキルに加え全体を見渡すことのできる大局観とグローバルなコミュニケーション能力を有する技術者が必要とされています。

そこで本学科では、特にものづくりに関連する実践的・実学的教育および社会人基礎力としてのコミュニケーション能力の養成を学習・教育目標とし、「前向き」「創造性豊かな」自立した技術者の養成をめざしています。JABEE（日本技術者教育認定機構）認定のきめ細かい教育体制のもとで、学生は各自の具体的目標を立て、各学期毎に達成度評価



3年生「エンジニアリング創成」：ポスターによるプレゼン風景

教育プログラム長 教授 小沢田 正



を行いながら着実に学習を進めていきます。学部での4年間は主に機械システム工学の基礎をしっかりと学んでいきます。約50%が進学する大学院博士前期課程の2年間では、研究の手法を深く学びその分野の最先端を体験し、ほとんどの学生が国際会議等を含む学会発表も行います。これは、学生にとって大きな自信となるだけでなく、企業からの評価も高く就職にもプラスになります。事情が許されるのであれば是非大学院へ進学されることをお勧めします。

就職内定率は2014年1月現在で、大学院は100%、学部昼間コース92%と高い就職率を達成しております。優れた人材を求める企業側の志向に変化はありませんので、今後も学科と産業界、OBとの連携を密にし、就職力の強化・サポート体制に万全を期して参ります。本学科の使命は教育・研究を通じた優れた人材の育成にあると教職員一同受止めており、今後も一丸となって取組む所存ですので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## システム創成工学科

平成22年4月にシステム創成工学科が新設されて早いもので4年が経過し、平成26年3月には第1期生51名の卒業生を社会に送り出すことになります。まったく無名の学科がこれまで順調に運営できたのは、保護者や後援会の皆様のご支援とご理解があったからだと心から感謝しております。

今年卒業する第1期生は非常に優秀な学生の集まりで、教職員とともに山形大学工学部システム創成工学科の礎を歩きながら考え・築いてくれた偉大な人たちです。この人たちの頑張りなしに今のシステム創成工学科を語ることはできません。大学での4年間でどのようなカリキュラムで勉強するのか、部活やサークルを昼間コースの学生と一緒に活動できるのか、どんな時間帯でアルバイトをやればいいのか・・・、小さなことから大きなことまで、第1期生がすべて後輩の目に見える形で雛形を示してくれました。いくら御礼の言葉を述べても足りないと思っています。本当にありがとうございます。

頑張ってくれた第1期生の進路についても素晴ら

教育プログラム長 教授 近藤 康雄



しい結果を得ることができました。51名中29名が山形大学大学院に進学し、そのうち11名は推薦合格です。あと2年間米沢の地に残り、偉大な研究成果をあげることにチャレンジしてくれたいと思います。残る22名は就職希望だったのですが、無名の新設学科ということもあって大苦戦するのではないかと、教職員も覚悟していました。しかし、結果はパーフェクトに近く、日ごろの努力は必ず実を結ぶことを学生自らが示してくれました。

もちろん第2期生以降も頑張っています。昨年度から始めた特許庁主催の「パテントコンテスト」では2年連続入賞者がでています。このほか書きたいことは山ほどあるのですが、紙面の都合上紹介できないことが残念です。今後とも皆様方の暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 有機デバイス工学専攻

本専攻は、日本で初めて有機デバイス工学に特化した専攻として、様々な有機デバイスの教育、研究に取り組んでおります。本専攻とも関連する、新たな実証研究施設として昨年4月には、「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」が完成しました。本センターは、有機エレクトロニクス分野における先端技術の実証研究拠点であり、本分野の基礎的・学術的成果を応用・実証に繋げる技術開発、実用化・産業化を推進することを目指しています。

本専攻の現状として、平成25年度は、大学院博士前期の学生定員25名を大きく上回る32名の学生が博士前期課程に入学しました。現在、有機デバイス工学専攻では、教授11名、准教授6名、助教7名の体制になっており、一部の先生方は、他専攻との兼任もなされております。本専攻の先生方は、本分野の研究に注力されており、益々活躍をされております。中核をなす城戸淳二卓越研究教授が、昨年11月に紫

## 専攻長 教授 伊藤 浩 志

綬褒章を受章されたことは記憶に新しいことです。笹部久宏助教は、昨年8月に第12回山形県科学技術奨励賞を受賞されました。さらに、夫勇進准教授は、独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業（さがけ）に採択されるなど、特

に若手研究者が活躍されています。これらの賞は、決して教員個人の能力が優れているからだけではなく、学生諸君の協力と成長によるものであります。本専攻で学ぶ学生たちのモチベーションも高く、精力的に勉学に励んでいます。このように本専攻では最先端の研究開発を通して、旺盛な好奇心を持ち意欲ある学生の育成を行っております。今後とも皆様方の暖かいご支援を宜しくお願い申し上げます。



## ものづくり技術経営学専攻

日本にとって、2014年は新たな飛躍の年になるでしょうか。21世紀になり、大地震、大洪水、巨大台風など、未曾有の自然災害が世界を襲いました。世界経済も迷走を繰り返し、日本の停滞・閉塞も著しいものでした。2013年後半から円高は多少なりとも是正され、株価は上昇傾向です。貿易収支は赤字記録更新で、国内産業力も含めた経済力回復とはいえないと思います。特に、地方での経済回復実感は全くないと思います。4月の消費税増税影響など不安定要素も抱えています。地方企業にとっても、自身の生産基地、カスタマーとサプライヤーがグローバルになり、国際情勢が地方の経済に直接に影響するように、世界規模の複雑化も進んでいます。

このような状況下、グローバルに先を見据える価値創成マネジメント力が必要です。何を、いつ、どうやって変えるのか、あるいは持続させるのか、あらゆる局面で決断が求められます。本専攻では、2014年もグローバル視点と地域貢献視点を基本に、従来以上に多様性に応える教育研究を進展させます。2013年10月に開始したボリビア国費留学生制度では、ボリビアの公社職員、大学教員など高い知識と研究可能性を持った学生が3名、さらにJICA派遣の日系留学生もあわせ計4名が地球の反対側から学びにきています。初めての豪雪体験を含め、新たな学びの連続です。彼らの米沢生活はすでに6か月が経ち、日本の文化と技術マネジメントの強みを学ぼうと

## 専攻長 教授 児玉 直 樹

熱心に励んでいます。この姿勢が、日本人学生達への刺激にもなっています。

本専攻は、定員の半分以上が10月入学の留学生で、また社会人大学院生が多いことが特徴です。このような幅広い対象の学生を受け入れることは、学生同士の共同作業での交流、授業での質疑応答で、学生たちがグローバル多様性を理解することに効果は絶大です。教員の研究においても、本専攻の基本であるグローバル視点と地域貢献視点の多様化にも効果があります。

学生は公私にわたる交流だけでなく、修了後も後輩の論文公聴会に参加するなど、学年、国境、職種を越えて人脈形成は広がっています。日本企業所属の社会人はもちろん、企業経験のない日本人学生も、本専攻で学習経験を持つことで、グローバル視点と地域貢献視点が身につくことは間違いありません。興味を持たれた勉学意欲に満ちた方の入学をお待ちしています。

皆様のなご一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



第1期ボリビア人国費留学生の初めての雪体験

# 平成24年度 一般会計収支決算書 及び 平成25年度 一般会計収支予算書

## 収入の部

(単位：円)

| 項 目   | 平成24年度     |            |            | 平成25年度<br>予算額 | 摘 要                                                                                                                               |
|-------|------------|------------|------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 予算額        | 収入済額       | 増減         |               |                                                                                                                                   |
| 会 費   | 21,534,500 | 19,890,000 | △1,644,500 | 21,138,000    | [会費内訳]<br>昼 間 コ ー ス @26,000円×599人<br>フレックスコース @26,000円×53人<br>3 年次編入学 @13,000円×10人<br>博士前期課程 @13,000円×288人<br>博士後期課程 @19,500円×16人 |
| 雑 収 入 | 2,000      | 2,148      | 148        | 2,000         | 預金利息                                                                                                                              |
| 繰 越 金 | 706,678    | 706,678    | 0          | 628,917       |                                                                                                                                   |
| 合 計   | 22,243,178 | 20,598,826 | △1,644,352 | 21,768,917    |                                                                                                                                   |

## 支出の部

| 項 目            | 平成24年度     |            |           | 平成25年度<br>予算額 | 摘 要                       |
|----------------|------------|------------|-----------|---------------|---------------------------|
|                | 予算額        | 支出済額       | 残 額       |               |                           |
| 1 学科厚生補導費      | 1,255,300  | 1,255,300  | 0         | 1,241,600     |                           |
| 学部学生指導補助費      | 572,800    | 572,800    | 0         | 569,600       | 入学現員で各学科に配分               |
| 学科行事等補助費       | 682,500    | 682,500    | 0         | 672,000       | 入学現員で各学科に配分               |
| 2 一般厚生補導費      | 2,654,500  | 2,724,221  | △ 69,721  | 2,748,500     |                           |
| 国際交流関係補助費      | 400,000    | 480,060    | △ 80,060  | 500,000       | 外国人留学生に関する行事等への補助         |
| 学務関係補助費        | 800,000    | 859,225    | △ 59,225  | 800,000       | 学生・教務関係補助                 |
| 保健管理関係補助費      | 100,000    | 65,096     | 34,904    | 100,000       | 定期健康診断等補助                 |
| 理容部運営補助費       | 450,000    | 414,815    | 35,185    | 450,000       | 国有財産使用料、光熱水料              |
| 教養教育事業後援費      | 904,500    | 905,025    | △ 525     | 898,500       | 昼間コース1年生@1,500円×599人      |
| 3 進路対策補助費      | 100,000    | 60,989     | 39,011    | 100,000       | 就職ガイダンス、書籍購入費補助           |
| 4 学生研究助成費      | 1,000,000  | 1,035,315  | △ 35,315  | 1,000,000     | 学会発表補助 @5,000円×200人       |
| 5 課外活動補助費      | 500,000    | 266,491    | 233,509   | 400,000       | サークル活動への補助                |
| 6 一般体育設備等補助費   | 500,000    | 264,135    | 235,865   | 400,000       | 体育用具等                     |
| 7 厚生施設等環境整備補助費 | 600,000    | 217,205    | 382,795   | 500,000       | 学内環境整備補助                  |
| 8 研修行事等関係補助費   | 150,000    | 140,000    | 10,000    | 150,000       | 技術職員研修補助                  |
| 9 学部渉外関係補助費    | 1,250,000  | 890,910    | 359,090   | 1,200,000     | 会議等補助                     |
| 10 大学行事補助費     | 2,000,000  | 2,029,840  | △ 29,840  | 2,000,000     | 学位記授与式・祝賀会、科学フェスティバル実施補助等 |
| 11 運 営 費       | 3,280,315  | 2,905,445  | 374,870   | 3,250,315     |                           |
| 会 報 費          | 550,000    | 513,556    | 36,444    | 550,000       | 「工学部だより」発行                |
| 会 議 費          | 300,000    | 285,106    | 14,894    | 300,000       | 理事会、会長・副会長会議              |
| 通 信 費          | 50,000     | 9,700      | 40,300    | 20,000        |                           |
| 事 務 費          | 1,100,000  | 1,033,699  | 66,301    | 1,100,000     | 事務局職員の給与、事務用品             |
| 旅 費            | 150,000    | 210,330    | △ 60,330  | 150,000       | 他大学研修視察                   |
| 地区別説明会費        | 1,000,000  | 752,739    | 247,261   | 1,000,000     | 保護者懇談会                    |
| 学園都市推進協議会費     | 100,315    | 100,315    | 0         | 100,315       | 負担金                       |
| 雑 費            | 30,000     | 0          | 30,000    | 30,000        |                           |
| 12 積 立 金       | 500,000    | 500,000    | 0         | 500,000       |                           |
| 13 施 設 協 力 金   | 8,282,500  | 7,650,000  | 632,500   | 8,130,000     | 定期預金へ                     |
| 14 予 備 費       | 170,563    | 30,058     | 140,505   | 148,502       |                           |
| 合 計            | 22,243,178 | 19,969,909 | 2,273,269 | 21,768,917    |                           |

## 平成25年度 工学部後援会役員名簿

| 役 職 | 氏 名                     | 所 属                                       |
|-----|-------------------------|-------------------------------------------|
| 会 長 | 学 外 上 村 勘 二             |                                           |
| 副会長 | 学 外 長 谷 部 利 信           |                                           |
|     | 大 学 院 2 年 伊 藤 甚 一       | 電気電子工学専攻                                  |
|     | 大 学 院 1 年 石 附 義 和       | 機能高分子工学専攻                                 |
|     | 教 授 妻 木 勇 幸             | 学務委員会委員長(機械システム工学分野)<br>同 副委員長(バイオ化学工学分野) |
| 理 事 | 大 学 院 2 年 中 川 聡         | 有機デバイス工学専攻                                |
|     | 大 学 院 1 年 面 川 日 呂 樹     | 物質化学工学専攻                                  |
|     | 大 学 院 1 年 吉 田 幸 雄       | バイオ化学工学専攻                                 |
|     | 昼 間 4 年 年 楠 田 仁         | 機械システム工学科                                 |
|     | フ レ ッ ク ス 1 年           | システム創成工学科                                 |
|     | 昼 間 4 年 年 鈴 木 さ だ 子     | 機械システム工学科                                 |
|     | 昼 間 3 年 年 佐 藤 武 雄       | 情報科学科                                     |
|     | 昼 間 3 年 年 安 原 和 子       | 情報科学科                                     |
|     | 昼 間 2 年 年 山 口 弘 巳       | 物質化学工学科                                   |
|     | 昼 間 2 年 年 梶 川 不 二 雄     | 機械システム工学科                                 |
|     | 昼 間 1 年 年 沼 尾 昭 宏       | 機能高分子工学科                                  |
|     | 昼 間 1 年 年 長 谷 部 洋 典     | 応用生命システム工学科                               |
|     | 昼 間 1 年 年 伊 藤 博         | 電気電子工学科                                   |
|     | フ レ ッ ク ス 3 年           | システム創成工学科                                 |
|     | フ レ ッ ク ス 2 年           | システム創成工学科                                 |
|     | フ レ ッ ク ス 1 年           | システム創成工学科                                 |
| 監 査 | 学 外 山 崎 洋 一 郎           | (一社)米沢工業会理事長                              |
|     | 学 外 鈴 木 利 雄 則           | (一社)米沢工業会常務理事                             |
|     | フ レ ッ ク ス 4 年 年 佐 藤 孝 則 | システム創成工学科                                 |
|     | 昼 間 2 年 年 鈴 木 隆 宣       | バイオ化学工学科                                  |
| 幹 事 | 教 授 佐 藤 学               | 前学務委員会委員長(電気電子工学分野)                       |
|     | 事 務 部 長 小 関 俊 宏         |                                           |
|     | 学 務 課 長 綿 貫 藤 雄 裕       |                                           |
|     | 上 席 係 長 更 科 一 次         |                                           |
| 顧 問 | 上 席 係 長 佐 藤 俊 次         |                                           |
|     | 工 学 部 長 飯 塚 博           |                                           |
|     | 前 会 長 山 森 茂 一 郎         |                                           |

## お 知 ら せ

### ◎学位記授与式・祝賀会のご案内

日 時：平成26年3月21日(金) 午前10時から  
式典会場：米沢市営体育館 米沢市金池3-1-62  
祝賀会会場：グランドホクヨウ 米沢市金池2-3-7

### ◎入学式のご案内

日 時：平成26年4月4日(金) 午前10時30分から  
式典会場：山形県体育館  
山形市霞城町1-2 霞城公園内

### ◎各種相談の窓口

#### 学務課学生支援担当(☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、  
休・退学、留学、学生寮、サークル活動、  
健康相談、こころの悩み

#### 学務課教育支援担当(☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、  
諸証明書の発行、転学部・転学科、  
科目等履修生、T A

#### 学務課入試担当(☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

## 工学部の26年度年間予定表

### 前 期(平成26年4月1日～9月30日)

春季休業：4/1(火)～4/4(金)  
入学式：4/4(金)  
授業期間：4/9(水)～7/22(火)  
定期試験：7/23(水)～7/31(木)  
補講期間：8/1(金)～8/7(木)  
夏季休業：8/8(金)～9/30(火)

### 後 期(平成26年10月1日～平成27年3月31日)

授業期間：10/1(水)～12/24(水)  
開学記念日：10/15(水)  
冬季休業：12/25(木)～1/12(月)  
授業期間：1/13(火)～2/3(火)  
定期試験：2/4(水)～2/13(金)  
補講期間：2/16(月)～2/20(金)  
春季休業：2/23(月)～3/31(火)  
学位記授与式：3/21(土)

# 平成25年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

## 1. 工学部

(1月末日現在)

| コース                                            | 学科          | 就職内定先・進学予定先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | (順不同) |
|------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 昼<br>間<br>・<br>A<br>コ<br>ー<br>ス                | 機能高分子工学科    | (株)サンリツ、WBD工学科(株)、サンリツ工業(株)、(株)ガスバル、タマポリ(株)、クボタシーアイ(株)、(株)アイテック、(株)八神製作所、(株)名機製作所、山形県中小企業団体中央会、武蔵エンジニアリング(株)、畝和塾、(株)ホープ、(株)キャン、(株)倉本工業、(株)やまと、ユニバーサル製缶(株)、森松工業(株)、(株)アントンパール・ジャパン、友栄塗装(株)、(株)モルテン、扶桑電通(株)、アトミクス(株)、伊藤忠エクスホームライフ東北(株)、(株)コスモス薬品、公務員(6人)(中山町職員、田村市職員、豊田市職員、太子町職員、鶴岡市消防署、宮城県警)、山形大学大学院(66人)、東京工業大学大学院、東北大学大学院(2人)、筑波大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学                                                                                                                                                                                                                                        |       |
|                                                | 物質化学工学科     | 新興ブランテック(株)、シロキ工業(株)、(株)ニクニ白鷹(2人)、三甲(株)、ジーエルサイエンス(株)、丸木医科機器(株)、日新製薬(株)、パナソニックロジスティクス(株)、(株)丹羽鉄工所、三栄グループ(2人)、(株)朝日工業社、日本原燃(株)、(株)シード、プラス・テック(株)、技研(株)、丸三製紙(株)、古川エヌ・デー・ケー(株)、東京都エレクトロン(株)、大内新興化学工業(株)、高砂熱学工業(株)、(株)T R I サイタマ、スズキ(株)、ニプロ(株)、凸版印刷(株)、岩手医科大学、新光電気工業(株)、日立I N S ソフトウェア(株)、アリオンテック(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)高木化学研究所、(株)クリーンシステム、N S K ワーナー(株)、日本原燃分析(株)、弘進ゴム(株)、(株)アドバンストラフィックスシステムズ、(株)産業分析センター、公務員(3人)(甲府市職員、山形市職員、黒石市職員)、山形大学大学院(36人)、横浜市立大学大学院                                                                                                                                        |       |
|                                                | バイオ化学工学科    | デュボン(株)、ゼリア新薬工業(株)、日新製薬(株)、(株)J S コーポレーション、イカリ消毒(株)、ニプロ(株)、伊藤忠エクスホームライフ東北(株)、ソマール(株)、(株)セイシン企業、山田製薬(株)、ヤンマーアグリジャパン(旧ヤンマー農機販売)(株)、石原産業(株)、タマポリ(株)、シーケーエンジニアリング(株)、公益社団法人水質保全協会、高田製薬(株)、キャノンシステムアンドサポート(株)、伊藤ハム(株)、(株)ロビニア、(株)大昌電子、大内新興化学工業(株)、(株)産業分析センター、ニプロ医工(株)、杏林製薬(株)、東北大学職員、公務員(福島県職員)、山形大学大学院(26人)、東北大学大学院                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |
|                                                | 応用生命システム工学科 | 清水建設(株)、日立I N S ソフトウェア(株)、福島テレビ(株)、(株)テクノプロエンジニアリング、日本郵便(株)、日立交通テクノロジー(株)、(株)日立ドキュメントソリューションズ、(株)Y C C 情報システム、日本証券テクノロジー(株)、(株)インテック、N E C ソフトウェア東北(株)(2人)、山形ダイハツ販売(株)、(株)ムトウ、日本アドバンストテクノロジー(株)、東芝I T サービス(株)、(株)東日本計算センター、環境ウィザード(株)、(株)ステップ、新ふくしま農業協同組合、(株)合人社計画研究所、日東ベスト(株)、(株)日本線路技術、公務員(6人)(鳥取県教育委員会、警視庁、福島県警、陸上自衛隊、山形市消防署、東京23区清掃一部事務組合)、山形大学大学院(27人)、東京農工大学大学院、東北大学大学院(2人)                                                                                                                                                                                                           |       |
|                                                | 情報科学科       | 東杜シーテック(株)、キャノンI T ソリューションズ(株)、(株)Y C C 情報システム、(株)富士通ミッションクリティカルシステムズ、日本工営(株)、セコムトラストシステムズ(株)、三菱インフォメーションシステムズ(株)、(株)日立ソリューションズ東日本、三菱電機情報ネットワーク(株)(2人)、(株)シアン・ス・アール、大興電子通信(株)、(株)D N P 情報システム、(株)日立ハイシステム21、(株)エイブルジャパン、富士通C I T (株)、(株)ウェルコム、ビズテックニカルサポート(株)、山形航空電子(株)、テクノ・マインド(株)(2人)、U T リーディング(株)、(株)ハイテックシステムズ、ライフツリー(株)、(株)データシステム米沢、ソフトバンク(株)、富士古河E & C (株)、(株)ソフトクリエイティブホールディングス、公務員(3人)(山形県警、西川町職員、法務局(仙台管区))、山形大学大学院(25人)、東北大学大学院(2人)、専門学校                                                                                                                                        |       |
|                                                | 電気電子工学科     | 東光電気工事(株)(2人)、(株)ジェイテクト、(株)ユアテック(2人)、(株)アークレイファクトリー、東北電力(株)、三機工業(株)、国際通信企画(株)、日本電設工業(株)、(株)サンテック、古川電気工業(株)、(株)アサヒファシリティズ、一般財団法人東北電気保安協会、日本リーテック(株)、アイシン・エイ・ダブリュ工業(株)、秋本製鋼(株)、(株)日立システムズ、マルチプライ(株)、北芝電機(株)(2人)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、ユニアデックス(株)、(株)サンオー、(株)中央製作所、(株)アドヴィックス、東芝ホームテクノ(株)、プラス・テック(株)、大和ハウス工業(株)、(株)京三製作所、三和工機(株)、前澤化成工業(株)、(株)かわでん、自営、公務員(4人)(安中市職員、青森県職員、盛岡市職員、経済産業省)、山形大学大学院(31人)、東北大学大学院、東京農工大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学                                                                                                                                                                 |       |
| フ<br>レ<br>ッ<br>ク<br>ス<br>・<br>B<br>コ<br>ー<br>ス | 機械システム工学科   | (株)カンセツ、カルソニックカンセイ(株)、高砂熱学工業(株)、(株)ニプロ(2人)、出光興産(株)、アキレス(株)、(株)ムトウ、(株)日立ニコトランスミッション、菊地歯車(株)、マレーエンジンコンポーネンツジャパン(株)、トヨタ自動車東日本(株)、日精(株)、(株)鷺宮製作所、(株)ユアテック、(株)米沢電工工業(株)、浜松ホトニクス(株)、ジャトコ(株)、中央コンビューター(株)、(有)T K ファクトリー、井関農機(株)、(株)エフテック、T H K 新潟(株)、(株)ケーヒン、KYB(株)、(株)ホンダロック、トヨタ自動車(株)、山形パナソニック(株)、北海道旅客鉄道(株)、シークス(株)、パナソニックシステムネットワークス(株)、パナソニックインダストリアルデバイス(株)、(株)アドバンテスト、(株)ケーヒン・サーマルテクノロジー、ミクロン精密(株)、(株)ジェー・シー・スタッフ、ソライズエンジニアリング(株)、トーテックアメニティ(株)、東北バイオニアE G (株)、(株)北日本金型工業、(株)V S N、日測エンジニアリング(株)、公務員(3人)(酒田市職員、長井市職員、陸上自衛隊)、山形大学大学院(44人)、静岡大学大学院、首都大学東京大学院、筑波大学大学院(2人)、東北大学大学院(14人)、山梨大学大学院 |       |
|                                                | システム創成工学科   | (株)ニプロ、(株)富士通システムズ・イースト、(株)コガネイ、東北電機製造(株)、(株)アクティオ、三木ブリー(株)、彌満和精機工業(株)、米沢放電工業(株)、(株)ニレコ、ALSOK山形(株)、ヤマセ電気(株)、ハイメカ(株)、(株)東洋クオリティワン、(株)東北フジパン仙台工場、(株)日立建機カミーノ、(株)シー・エス・イー、サクサ(株)、(株)太平エンジニアリング、山形航空電子(株)、フシマン(株)、公務員(弘前市職員)、山形大学大学院(29人)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |
|                                                | 応用生命システム工学科 | 山形大学大学院                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |
|                                                | 電気電子工学科     | (未定)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |       |
| B<br>コ<br>ー<br>ス                               | 機械システム工学科   | (株)ヤマダ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |

## 2. 大学院理工学研究科博士前期課程(工学系)

| 専攻         | 就職内定先・進学予定先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | (順不同) |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 機能高分子工学専攻  | 青葉化成(株)、N O K (株)(2人)、(株)ヤマノビューティメイトグループ、(株)ジャパンディスプレイ、(株)仙台ニコン、アイカ工業(株)(2人)、日本カーリット(株)、大内振興化学工業(株)、デクセラアルズ(株)、(株)パーカーコーポレーション、イハラサイエンス(株)、住化加工紙(株)(2人)、ポリプラスチックス(株)、(株)ハーモニック・ドライブ・システムズ、日本通信電材(株)、(株)セイシン企業、アイシン精機(株)、東山フィルム(株)、町田食品(株)、横浜ゴム(株)、日本デキサス・インストルメンツ(株)、フジパン(株)、日本プチル(株)、(株)ボラテクノ、フドー(株)、住友電装(株)、東レバッテリーセパレータフィルム(株)、協和ボーリング(株)                                                              |       |
| 有機デバイス工学専攻 | 信越化学工業(株)、三菱ガス化学(株)、キャノン化成(株)(2人)、アキレス(株)、日本シイエムケイ(株)、出光興産(株)、昭和電工ガスプロダクツ(株)、米沢放電工業(株)、米沢浜理薬品工業(株)、(株)東海理化電機製作所、(株)芝浦電子、日本ケミコン(株)、(株)V S N、河西工業(株)、積水化学工業(株)、(株)富士通ゼネラル、東京応化工業(株)、大和電機工業(株)、ロックベイト(株)、富士重工工業(株)(2人)、(株)ニプロ、日本カーリット(株)、(株)ジャパンディスプレイ、(株)イノアックコーポレーション、福島キャノン(株)、京セラケミカル(株)、東レ・ファインケミカル(株)、日弘ビックス(株)、日本製紙(株)、東洋合成工業(株)、矢崎化工(株)、天昇電気工業(株)(2人)、多摩川精機(株)、(株)五光製作所、藤森工業(株)、自営、山形大学大学院博士後期課程(8人) |       |
| 物質化学工学専攻   | 綜研化学(株)、(株)カーメイト、(株)クラレ、高砂熱学工業(株)、(株)I H I、(株)福島理化学研究所、三洋化成工業(株)、三菱化学エンジニアリング(株)、(株)アーレスティ、神東塗料(株)、暮らしの科学研究所(株)、東プレ(株)、日揮プラントソリューション(株)、京セラケミカル(株)、日本プロセス(株)、日曹エンジニアリング(株)、レンゴー(株)、三菱レイヨン(株)、太陽誘電(株)、(株)クレハ環境、(株)芝浦電子、藤倉応用化工(株)、名古屋製酪(株)、イカリ消毒、川崎化成工業(株)、ソニーエナジー・デバイス(株)、フタバ産業(株)、日本ケミコン(株)、(株)S U M C O、日本合成化学工業(株)、山九(株)、公務員(自衛隊)、山形大学大学院博士後期課程(2人)                                                     |       |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バイオ化学工学専攻    | シーアイケミカル㈱、山形酸素㈱、興国インテック㈱、㈱イービーメイト、積水樹脂㈱、川口化学工業㈱、㈱V S N、テバ製薬㈱、㈱キャタラー、日新製薬㈱、澁谷工業㈱、㈱富士通ゼネラル、フロイント産業㈱、日本原燃㈱、リンテック㈱、日立化成テクノサービス㈱、アイリスオーヤマ㈱、N E C トーキョー㈱、㈱N H C 北日本本部、㈱三ツ矢、大内新興化学工業㈱(2人)、東洋合成工業㈱、大阪ガスケミカル㈱、関東化学㈱、太平洋セメント㈱、共和ハーモテック㈱、静岡県立高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、山形大学大学院博士後期課程(3人)                                                                                                                                                                                     |
| 応用生命システム工学専攻 | 岡崎医療㈱、東日本旅客鉄道㈱(2人)、㈱日立ソリューションズ東日本(2人)、㈱ジェット、DOWAホールディングス㈱、富士通アイソテック㈱、世田谷精機㈱、富士電気㈱、アルプス電気㈱、東芝メディカルシステムズ㈱、東北電力㈱、アドテックス㈱、㈱Y C C 情報システム、三栄ハイテック㈱、トヨタ自動車㈱、㈱トップ、T D C ソフトウェアエンジニアリング㈱、㈱アイビースステム、㈱オージス総研、日立 S C ㈱、ニプロ㈱、山形大学大学院博士後期課程、金沢大学大学院博士後期課程                                                                                                                                                                                                               |
| 情報科学専攻       | 神田通信機㈱、㈱ロジックデザイン、東日本旅客鉄道㈱、N D ソフトウェア㈱、バイオニアシステムテクノロジー㈱、京セラ丸善システムインテグレーション㈱、東芝情報システム㈱、東北電力㈱、協栄産業㈱、㈱日立情報通信エンジニアリング、㈱システマレーテ、㈱システムフォーサイト、㈱富士通アドバンスソリューションズ、デンソーテクノ㈱、東北 N S ソリューションズ㈱、T O A ㈱、東芝ソリューション㈱、農中情報システム㈱、㈱京三製作所、㈱テクノサイト、J A あいち豊田、㈱シーエスデー、㈱日立ソリューションズ、㈱g l o o p s、キャノンイメージングシステムズ㈱、山形放送㈱                                                                                                                                                           |
| 電気電子工学専攻     | サクサ㈱、日本電波工業㈱、ホーチキ㈱、新電元工業㈱、富士重工業㈱、本田技研工業㈱、三菱自動車工業㈱、相模鉄道㈱、国際通信企画㈱、Y K K ㈱、矢崎総業㈱、日本光電工業㈱、沖電気防災㈱、東北電力㈱(2人)、東光電気工事㈱、アライドテレシスホールディングス㈱、東北精機工業㈱、㈱明電舎、東日本旅客鉄道㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱、コバレントマテリアル㈱、ヤマザキマザック㈱、㈱関電工、大興電子通信㈱、㈱高砂製作所、日星電気㈱、㈱日立国際電気、三菱樹脂㈱、㈱大林組、三菱電機エンジニアリング㈱、昭和電工㈱、㈱タチエス、東芝テック㈱、日本工営㈱、㈱村田製作所、山九㈱、茨城県公立高等学校教員、公務員(国土交通省東北運輸局)、山形大学大学院博士後期課程(2人)                                                                                                                  |
| 機械システム工学専攻   | アルプス電気㈱(2人)、ユニバーサル製缶㈱、東北発電工業㈱、アイシン高丘東北㈱、日本コークス工業㈱、シーアイ化成㈱、白河オリンパス㈱(2人)、㈱アイチコーポレーション、三機工業㈱、信越ポリマー㈱、朝日インテック㈱、T H K インテックス㈱、ジェイ・ワイテックス㈱、日本ゼオン㈱、㈱大林組、凸版印刷㈱、東日本旅客鉄道㈱仙台支社、㈱山本製作所、千住金属工業㈱、林テレンプ㈱、日本ケミコン㈱、㈱ケーヒン・サーマルテクノロジー、東京計器㈱、大成建設㈱、シロキ工業㈱、㈱フジマック、倉敷機械㈱、㈱小松製作所、三菱重工精密铸造㈱、㈱テクノメディカ、キャノントッキ㈱、新潟原動機㈱、日本テトラパック㈱、㈱ニューヨーカー、J F E 銅板㈱、㈱東北技研、㈱東北技研、㈱モビテック、㈱ケーヒン、㈱メイトック(2人)、N O K ㈱、㈱T B K、リコーインダストリー㈱、㈱荏原製作所、大昌精機㈱、ヤマハモーターエンジニアリング㈱、日本電産コパル電子㈱、大成建設㈱、山形大学大学院博士後期課程(2人) |
| ものづくり技術経営専攻  | 日進工具㈱、㈱遠藤製作所、㈱内藤工業所、有職者(1人)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

### 3. 大学院理工学研究科博士後期課程（工学系）

| 専 攻          | 就職内定先・進学予定先       | (順不同) |
|--------------|-------------------|-------|
| 有機材料工学専攻     | 日本インテグリス㈱、有職者(3人) |       |
| システム情報工学専攻   | (未定)              |       |
| バイオ工学専攻      | (未定)              |       |
| 機械システム工学専攻   | 公務員(東北管区警察局)      |       |
| ものづくり技術経営学専攻 | ㈱サカモト、有職者(2人)     |       |
| 有機デバイス工学専攻   | (未定)              |       |

## 平成24年度 卒業・修了者の就職状況

| 学科・専攻等<br>事項 |         | 工学部Aコース     |             |            |           |           |             |             | 工学部Bコース    |           |           |          |             |            |           | 大学院理工学研究科博士前期課程 |            |           |           |              |           |              |            |             |              | 合<br>計 |
|--------------|---------|-------------|-------------|------------|-----------|-----------|-------------|-------------|------------|-----------|-----------|----------|-------------|------------|-----------|-----------------|------------|-----------|-----------|--------------|-----------|--------------|------------|-------------|--------------|--------|
|              |         | 機能高分子工学科    | 物質化学工学科     | 機械システム工学科  | 電気電子工学科   | 情報科学科     | 応用生命システム工学科 | 計           | 物質化学工学科    | 機械システム工学科 | 電気電子工学科   | 情報科学科    | 応用生命システム工学科 | 計          | 機能高分子工学専攻 | 物質化学工学専攻        | 機械システム工学専攻 | 電気電子工学専攻  | 情報科学専攻    | 応用生命システム工学専攻 | バイオ化学工学専攻 | ものづくり技術経営学専攻 | 有機デバイス工学専攻 | 計           |              |        |
| 概況           | 卒業・修了者数 | (12)<br>114 | (31)<br>118 | (3)<br>125 | (0)<br>91 | (6)<br>89 | (14)<br>61  | (66)<br>598 | (10)<br>30 | (1)<br>25 | (0)<br>15 | (2)<br>8 | (3)<br>8    | (16)<br>86 | (4)<br>38 | (8)<br>29       | (0)<br>59  | (0)<br>38 | (2)<br>37 | (6)<br>22    | (7)<br>27 | (3)<br>12    | (4)<br>30  | (34)<br>292 | (116)<br>976 |        |
|              | 就職希望者数  | (6)<br>34   | (22)<br>61  | (2)<br>63  | (0)<br>51 | (5)<br>58 | (8)<br>22   | (43)<br>289 | (8)<br>18  | (1)<br>18 | (0)<br>12 | (2)<br>6 | (2)<br>5    | (13)<br>59 | (4)<br>33 | (8)<br>28       | (0)<br>55  | (0)<br>37 | (2)<br>35 | (5)<br>21    | (7)<br>25 | (3)<br>11    | (4)<br>28  | (33)<br>273 | (89)<br>621  |        |
|              | 自営希望者数  | (0)<br>0    | (0)<br>0    | (0)<br>0   | (0)<br>0  | (0)<br>0  | (0)<br>0    | (0)<br>0    | (0)<br>0   | (0)<br>0  | (0)<br>0  | (0)<br>0 | (0)<br>0    | (0)<br>0   | (0)<br>0  | (0)<br>0        | (0)<br>0   | (0)<br>0  | (0)<br>0  | (0)<br>0     | (0)<br>0  | (0)<br>0     | (0)<br>0   | (0)<br>0    | (0)<br>0     |        |
|              | 進学希望者数  | (6)<br>76   | (9)<br>53   | (0)<br>54  | (0)<br>39 | (1)<br>27 | (6)<br>36   | (22)<br>285 | (2)<br>12  | (0)<br>7  | (0)<br>1  | (0)<br>2 | (1)<br>3    | (3)<br>25  | (0)<br>2  | (0)<br>1        | (0)<br>2   | (0)<br>1  | (0)<br>1  | (0)<br>0     | (0)<br>2  | (0)<br>0     | (0)<br>2   | (0)<br>11   | (25)<br>321  |        |
|              | その他     | (0)<br>4    | (0)<br>4    | (1)<br>8   | (0)<br>1  | (0)<br>4  | (0)<br>3    | (1)<br>24   | (0)<br>0   | (0)<br>0  | (0)<br>2  | (0)<br>0 | (0)<br>0    | (0)<br>2   | (0)<br>3  | (0)<br>0        | (0)<br>2   | (0)<br>0  | (0)<br>1  | (1)<br>1     | (0)<br>0  | (0)<br>1     | (0)<br>0   | (1)<br>8    | (2)<br>34    |        |
|              | 就職者数    | (6)<br>34   | (22)<br>61  | (2)<br>59  | (0)<br>49 | (5)<br>52 | (8)<br>21   | (43)<br>276 | (6)<br>16  | (1)<br>16 | (0)<br>12 | (2)<br>6 | (2)<br>5    | (11)<br>55 | (4)<br>33 | (8)<br>28       | (0)<br>55  | (0)<br>35 | (2)<br>33 | (5)<br>21    | (7)<br>25 | (1)<br>9     | (4)<br>28  | (31)<br>267 | (85)<br>598  |        |
|              | 未就職者数   | (0)<br>0    | (0)<br>0    | (0)<br>4   | (0)<br>2  | (0)<br>6  | (0)<br>1    | (0)<br>13   | (2)<br>2   | (0)<br>2  | (0)<br>0  | (0)<br>0 | (0)<br>0    | (2)<br>4   | (0)<br>0  | (0)<br>0        | (0)<br>0   | (0)<br>2  | (0)<br>2  | (0)<br>0     | (0)<br>0  | (2)<br>2     | (0)<br>0   | (2)<br>6    | (4)<br>23    |        |
|              | 就職率(%)  | 100.0       | 100.0       | 93.7       | 96.1      | 89.7      | 95.5        | 95.5        | 88.9       | 88.9      | 100.0     | 100.0    | 100.0       | 93.2       | 100.0     | 100.0           | 100.0      | 94.6      | 94.3      | 100.0        | 100.0     | 81.8         | 100.0      | 97.8        | 96.3         |        |

[注] ( ) 内の数字は女子を示し内数である。

# 留学生の山形県内企業訪問の紹介

理工学研究科 准教授  
綾部 誠

平成25年度、山形大学工学部国際交流センターならびに理工学研究科ものづくり技術経営学専攻では、文部科学省の「留学生交流拠点整備事業」ならびに山形大学国際化推進事業支援プログラムである「留学生能力活用および就職支援事業」に取り組んでいます。

これまで山形大学工学部・大学院理工学研究科に在籍する留学生にとって、日本企業への就職と理解促進には、大きな課題がありました。これを払拭するため今回、「留学生のための県内企業バスツアー」と「留学生OBの就職する企業への訪問学習」を企画・実施しました。

8月8日にはバスツアー形式で、ミクロン精密株式会社、佐藤繊維株式会社、高畠ワイン株式会社を訪問しました。山形県内企業の技術力の高さやグローバル戦略を学ぶとともに、日本企業の文化やビジネスの在り方について学びました。学生からは、山形県がものづくり先進県であることが分かった、日本企業の技術と品質の高さを理解できたなど、多様な意見が寄せられました。

また11月7日および11月21日には、留学生OBの働く企業を留学生が訪問しました。訪問したのは、県内に所在するエムエスアイ株式会社と山形食品株式会社でした。会社概要に加え、留学生OBによる日本企業で働くことの意義に関する講演、企業見学などが行われました。日本の技術力の高さを理解するとともに、留学生だからこそ日本企業に貢献できることを、それぞれが考えるきっかけとなりました。

山形大学では、今後も県内企業の国際展開力を強化するため、留学生に対する日本企業への理解促進と、地元企業への就職・定着・支援を図っていきます。



## サークル紹介

ロボタスティクス部 部長 金子 恭佑  
(機械システム工学科3年)

皆様初めまして、山形大学工学部ロボタスティクス部です。ロボタスティクスとは「Robotics」と「Fantastic」を掛け合わせたもので、部員が独創的で素晴らしいロボットを製作できる場であるようにとの思いが込められています。

我々の主な活動内容は、右上の図1のような仙台で行われる知能ロボットコンテストや、右下の図2のような学内のロボットコンテストに出場するロボットを製作することです。しかし、それだけが目的ではありません。活動内容は個人で自由に定めることができ、プログラムの製作、オリジナリティに富んだ機構の製作など、自分の考えついたモノを自由に創ることができます。

部室には小型の工作機械や材料、基盤などの部品が揃い、環境の面からも「ロボットを作りたい!!」という意気込みのある方を全力でサポートします。近年の成果として、知能ロボットコンテストに出場した2チームがそれぞれ決勝進出5位と予選通過、学内のロボットコンテストでは優秀賞や奨励賞、及び初出場で入賞という、例年より大きな実績があります。今後はさらに上位への入賞を目標に活動を続けていく予定です。

さて、この文章を読んでいる工学部生のあなた小白川キャンパスにはなかった「自分で考えたモノを形にできる場」が、あなたの目の前にあります。ここは普通の講義のように指示されたモノを「作る」場所ではなく、あなた次第で様々なモノを「創る」ことができる場所です。山大工学部の中でも最も工学部らしいサークルの一つ、ロボタスティクス部であなたの想像を形にして、皆を驚かせてみませんか?少しでも興味があれば、是非見学にいらしてください。部員一同、あなたのご来訪を心よりお待ちしております!!

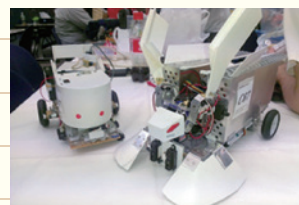


図1 知能ロボットコンテスト用のロボット



図2 学内のロボットコンテスト用のロボット